shindaiwa

電子エンジン刈払機

かるーね RM350-2

取扱説明書

●必ずお読みください。

新ダイワ工業株式会社

はじめに

このたびは新ダイワの刈払機をお買い上げいただき、ありがとうございます。皆様がご満足いただけるよう、弊社が心をこめて製作した刈払機です。お使いになる前には必ずこの説明書をよく読み機械を正しく作動させ又、間違ってけがなどをされないようにして作業を開始してください。

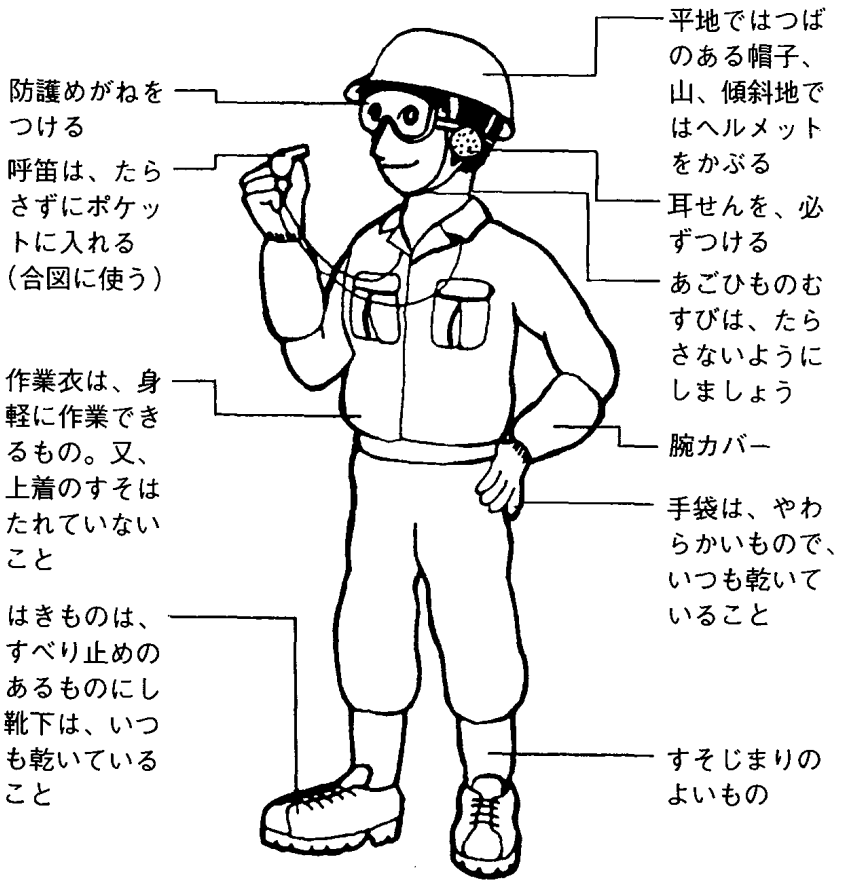
新ダイワ工業株式会社

目　次

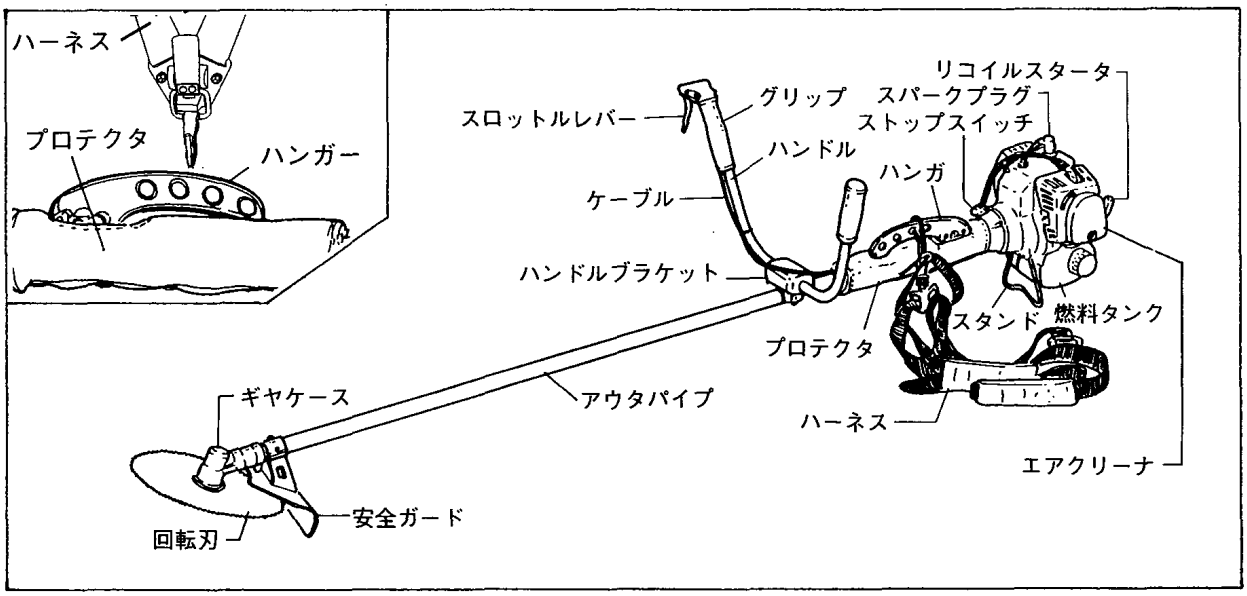
安全作業注意事項 …… 2
A．各部の名称 …… 3
B．仕　様 …… 3
C．組立ての手順 …… 4
C－1．エンジンの組付け …… 4
C－2．ハンドルの取付け …… 4
C－3．スロットルケーブルの取付け …… 5
C－4．スロットルレバーとスロットルケーブルの取付け …… 5
C－5．安全ガードの取付け …… 6
C－6．回転刃の取付け …… 6
D．エンジンの始動、停止、調整 …… 8
D－1．燃料の給油 …… 8
D－2．始動のしかた …… 8
D－3．停　止 …… 10
D－4．エンジンの調整 …… 10
E．操作とその準備 …… 11
E－1．ハーネスの掛け方 …… 11
E－2．スイベルロック(オプション)の取付け・使用方法 …… 12
E－3．操作の方法 …… 12
F．手入れと調整 …… 14
F－1．日常の手入れ …… 14
F－2．50時間毎の手入れ …… 14
F－3．100時間毎の手入れ …… 15
F－4．回転刃の正しい目立て …… 15
G．長期保管 …… 16
H．安全作業のおねがい …… 17
H－1．服　装 …… 17
H－2．暑熱、寒冷のとき …… 17
H－3．火気厳禁 …… 17
H－4．作業前の点検 …… 17
H－5．作業中の注意 …… 18
I．故障の診断と処置 …… 19

危険防止のために下記のような作業注意事項を守ってください。

1．安全ガードは必ず付けて作業してください。
2．作業中は半径10m以内に他の人を近づけないでください。
3．作業中、移動中は必ず吊りバンド(ハーネス)を着用してください。
4．作業前に、刈刃にひび割れ、めくれ、まがり等の異常がないか点検し異常のある刈刃は絶対に使用しないでください。
木を切るには必ず鋸刃を使用し、草刈りにはVRクロス刃、VRともえ刃を使用してください。
5．作業中に刈刃が石などに当って衝撃を受けたときは、必ずエンジンを止めて刈刃の点検を行い、異常のある刈刃は使用しないでください。
6．給油の時は必ずエンジンを止めてください。
7．他の場所へ移動する時は必ずエンジンを止め、刈刃にカバーを付けてください。
8．安全作業のため下図の服装を参考にしてください。



A．各部の名称



B．仕　様

名　　称		新ダイワ刈払機
形　　式		ＲＭ３５０-２
伝達方式		自動遠心クラッチ・スパイラルベベルギヤ
減速比		１．２４
刃先回転数		4,000～6,500 rpm
刃先回転方向		上から見て左
本体乾燥重量		６．７ kg
外形寸法(長さ×幅×高さ)		1685mm×560mm×450mm
エンジン	機種名	新ダイワエンジン SM350
	形式	空冷２サイクルガソリンエンジン
	内径×行程	３６mm×３３mm
	総排気量	３３．６cc
	最大出力	１．８ PS
	使用燃料	１．０ ℓ
	燃料タンク容量	ガソリン25：オイル１
	気化器	ダイヤフラム式
	点火方式	電子点火
	スパークプラグ	チャンピオン CJ-8
	始動方式	リコイルスタータ
	停止方式	押ボタン
	エアクリーナ方式	半湿式消音形(防滴タイプ)
標準装備		緊急離脱装置付ハーネス　安全ガード 防振ブラケット付ハンドル　のこ刃255mm(10″) 始動ロック付き引金式スロットルレバー　刃物カバー 防振クラッチハウジング、スイベル式　工具一式
オプション		スイベルロック,モアユニットM-11,φ20ハンドルアセンブリ

C．組立ての手順

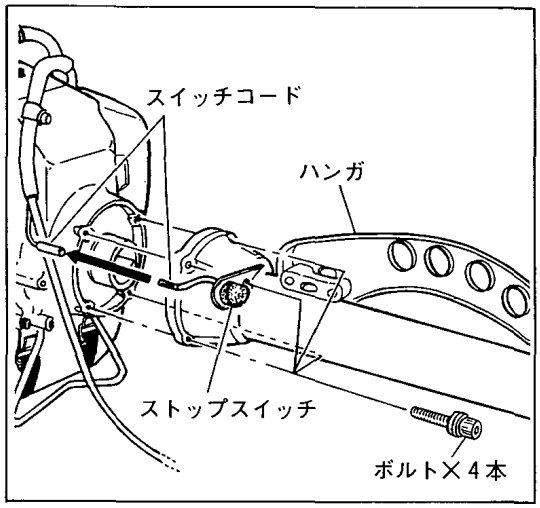
エンジン、ハンドル、安全ガード、回転刃などは取りはずして梱包してありますので、次の要領で正しく組立ててください。

C-1.エンジンの取付け

1．燃料タンクが下、ハンガが上になるように、エンジンを取付けてください。

2．エンジンの取付けには、付属のボルトをお使いください。この時、スイベルジョイントのゴム端面にオイルを塗ると組付けやすくなります。

3．ストップスイッチは、左上の位置（マフラ側）に共締めしたあと、スイッチコードを接続してください。



4．４本のボルトは平均に確実に締めつけてください。

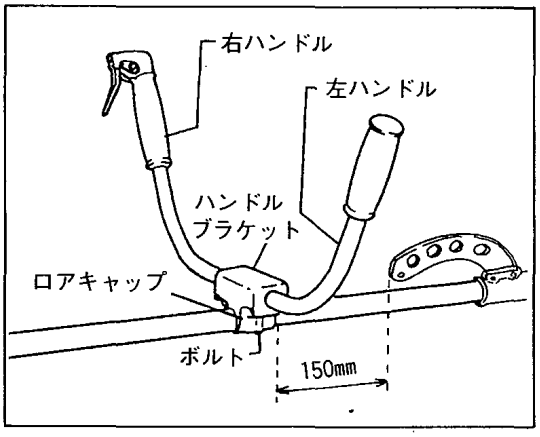
C-2.ハンドルの取付け

1．まず、ハンドルブラケットの下側の２本のボルトをゆるめてロアキャップをはずしてください。

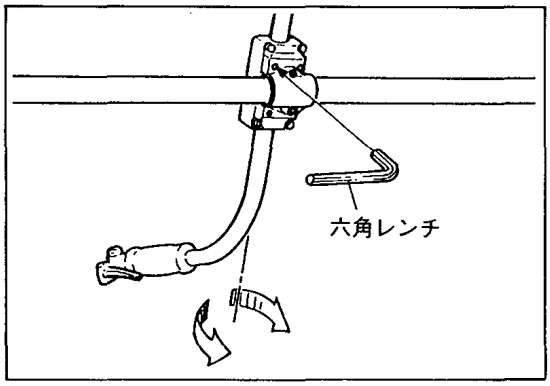
2．ハンドルはスロットルレバーが、作業状態で右側になるようにしてハンガ先端から約150㎜前方に組付けます。

3．ロアキャップを元通りにかぶせ、ボルトを軽く締めつけてください。

4．ハンガ先端から約150㎜前方の付近で体格に合わせて、前後にハンドルの位置を調整します。ギヤケースに対してハンドルブラケットが水平になるようにして、ボルトを確実に締めつけてください。

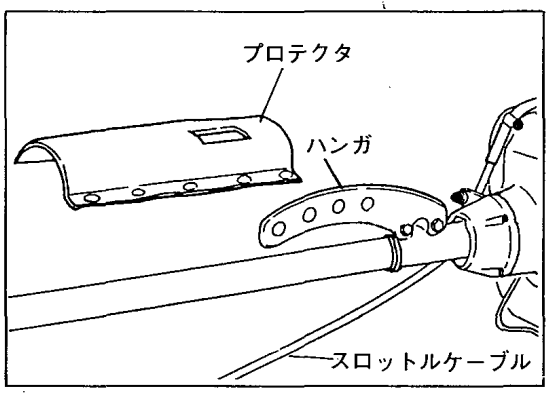


5．ハンドルブラケットの下側の穴から４か所のボルトをゆるめるとハンドルを前後に傾けることができます。



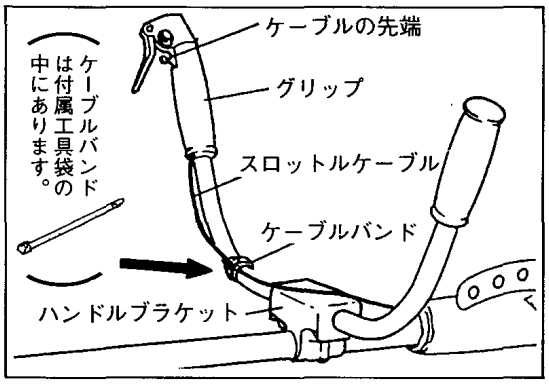
C-3．スロットルケーブルの取付け

1．スロットルケーブルをハンガの横（図では手前側）を通し、プロテクタを上からかぶせて固定してください。

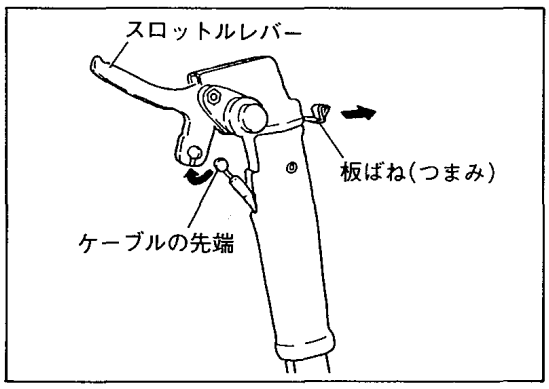


C-4．スロットルレバーとスロットルケーブルの取付け

1．スロットルケーブルをハンドルブラケットの上側にそわせ、グリップの穴に通し、反対側にケーブルの先端が出るようにします。



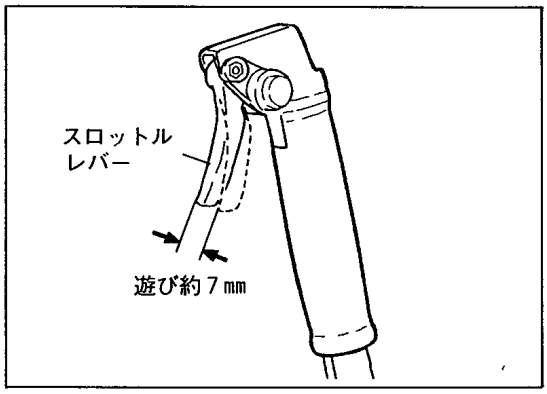
2．ボデーから出ている板ばねのつまみを止まるまで引出し、スロットルレバーのケーブル引っかけ部をボデーの外に出します。

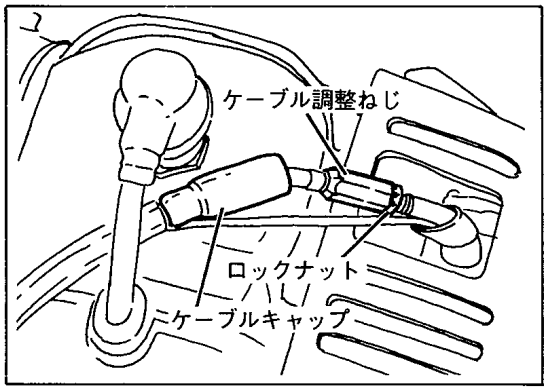


3．ケーブルの先端を引っかけ、スロットルレバーを元の状態に戻し、ケーブルをボデーに収めます。板ばねも元にもどします。

4．スロットルケーブルをケーブルバンドでハンドルに固定します。

5．スロットルレバー先端の遊びが約７㎜になるようにケーブル調整ねじを調整して、ロックナットで固定します。調整後、ケーブルキャップを元通りにケーブル調整ねじにかぶせてください。



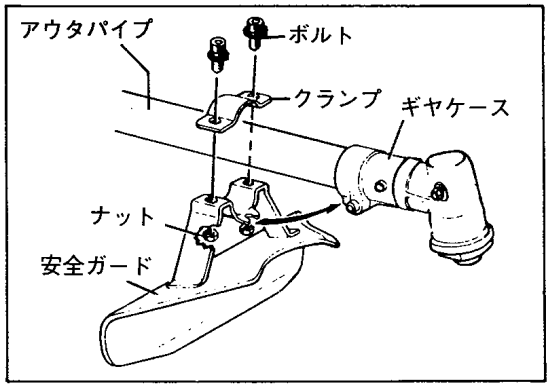


（注）板ばねを元にもどすとき、ボデーの中に押込みすぎないよう注意してください。

C-5.安全ガードの取付け

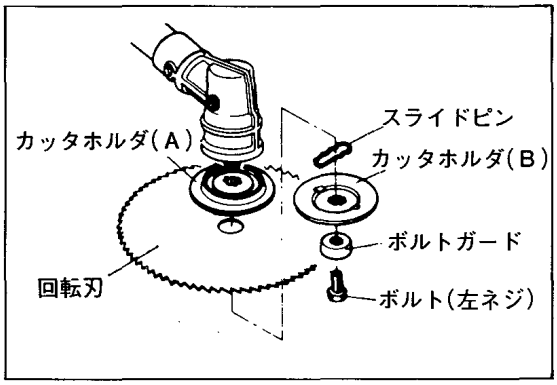
1．図のようにクランプをギヤケースの端に合わせて、アウタパイプに取付けます。

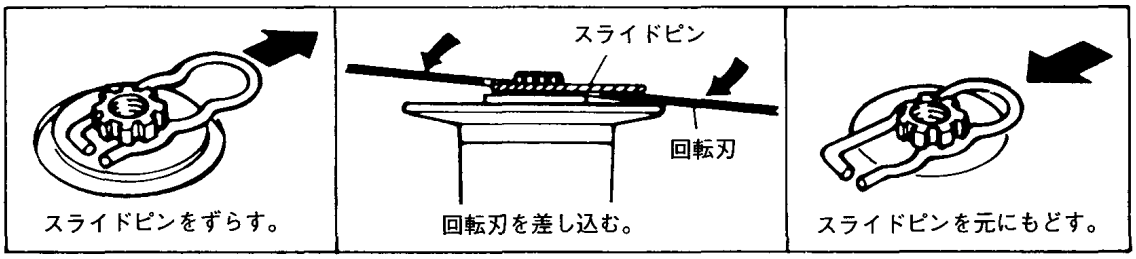
2．安全ガードが水平になるように調整して、クランプのボルトを確実に締めつけてください。



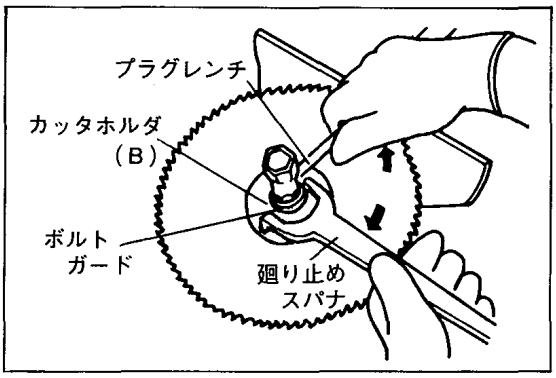
C-6.回転刃の取付け

1．回転方向を図のように合わせて、回転刃をセットします。(スライドピンを矢印の方向にずらし、回転刃を差し込む。スライドピンを元の位置にもどしてセット完了。)





2．カッタホルダB、ボルトガード、ボルトの順にはめ、廻り止めのスパナをカッタホルダBにかけ、ボルト(左ネジ)をプラグレンチで確実に締めつけてください。



(スライドピンが元の位置にもどっていないと、カッタホルダBが確実にはまりません。)

D．エンジンの始動、停止、調整

D－1．燃料の給油（混合燃料）

燃料はガソリン25に対してオイル１の割合で混合して給油してください。

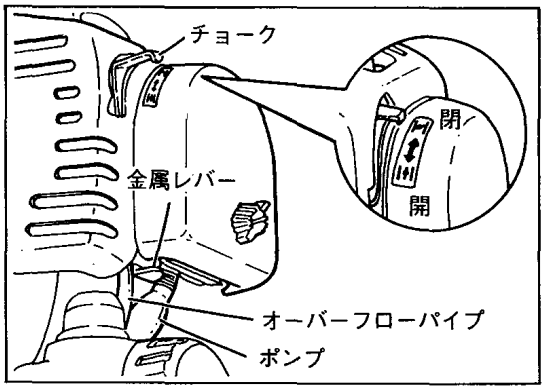
（注）1.オイルは必ず２サイクル専用オイルを使用してください。
2.燃料補給や混合する場合は、火気のないところでおこなってください。
3.エンジンが始動すると、回転刃がまわります。思わぬ事故が起きぬよう必ず周囲の安全確認をしてください。

D－2．始動のしかた

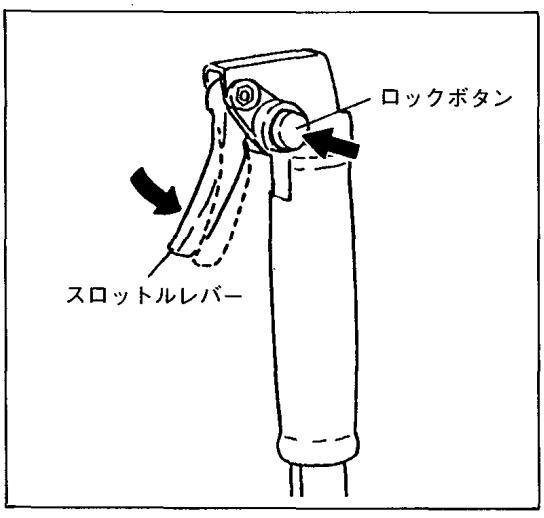
１．エンジンが冷えているとき。

1 キャブレタの下についている金属レバーを少し強く押し、そのままでキャブカバー下のポンプを数回つまみます。オーバーフローパイプに燃料が流れはじめたらやめてください。

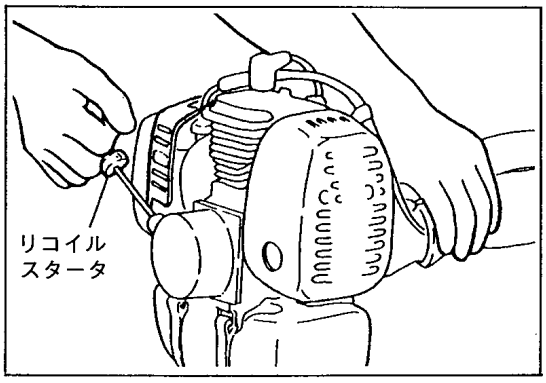
2 チョークを閉じる。
（チョークレバーを|／|にする。）



3 スロットルレバーを途中まで引いて、ロックボタンを押したままスロットルレバーをはなし、始動の状態にセットする。(スロットルレバーをもう一度引くとロックははずれます。)



4 右図のように左手でエンジンを押さえて、リコイルスタータを引く。つめがかかるまではゆっくり引き、かかって重くなった位置から強く引きます。



(注) 始動時にスタータロープを最後まで引くとロープの寿命が短くなりますので、できるだけ最後まで引かないようにしてください。圧縮が利いて重くなった位置から勢い良く引けば容易に始動します。

5 爆発音がしエンジンが始動したら、チョークを徐々に|↟|に戻してください。

- ●チョークを戻しきらないうちに停止した場合は、チョークを|↙|にして再始動してください。
- ●爆発音がしてすぐに停止した場合はチョークを|↟|に戻し、再びリコイルスタータを引いて始動してください。

6 始動したらスロットルレバーを全閉に戻して、アイドリング状態にしてください。エンジンがかかると回転刃もまわりますから注意してください。始動する前は、回転刃を地面から浮かして下さい。

2．エンジンが暖まっているとき

1 スロットルレバーを始動の状態にセットする。(前記 3)

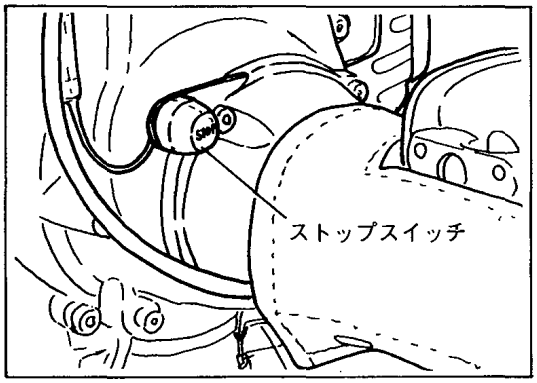
2 リコイルスタータを引く。

(注) 1.チョークレバーを|↙|にして始動するときは、爆発音がしてもチョークを|↙|にしたまま始動操作をくりかえすと、燃料の吸い込みすぎとなります。必ずチョークレバーを|↟|に戻し再始動してください。(前記 5 参照)
2.始動したら2～3分低速で暖機運転してください。

D-3.停止

1．スロットルレバーをはなして、エンジンの回転を低速に落とし、しばらくの間運転しエンジンを冷やします。

2．ストップスイッチを、エンジンが完全にとまるまで押しつづけてください。

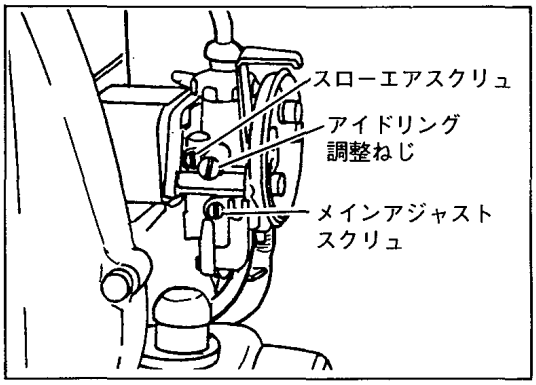


D-4.エンジンの調整

エンジンを始動させて、2～3分低速で暖機運転をした後に調整してください。

1．アイドリング調整

スロットルレバーをもどしたとき、安定して回転するようにアイドリングを調整してください。



アイドリング調整ねじを
- 右に回すと→回転が早くなる
- 左に回すと→回転が遅くなる

（注）アイドリングのとき、クラッチが切れて回転刃の回転が止まるようにしてください。

2．低速と高速の調整

	標準開度
スローエアスクリュ	¼開戻し
メインアジャストスクリュ	2回戻し

標準開度は、調整ねじを静かに一杯に締めこんだところからの戻し回数です。

（注）これら開度の調整はむずかしいですから、不調の場合は当社指定特約店に依頼してください。

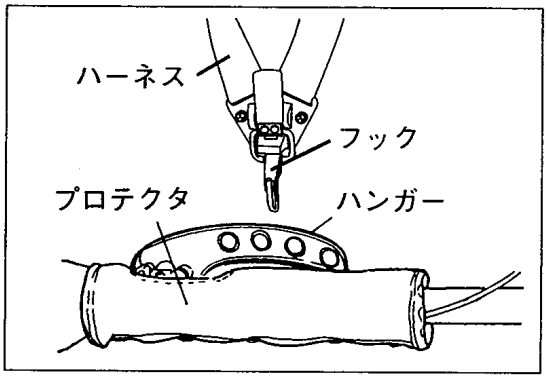
E．操作とその準備

E-1．ハーネスの掛け方

1．ハーネスを腕から通し、フックが身体の右側にくるように掛けてください。



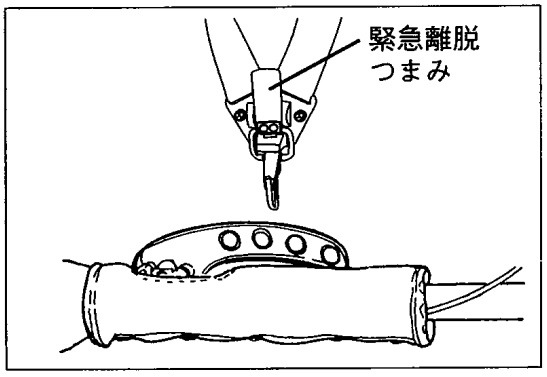
2．ハンガーの4個の穴のいずれかにハーネスのフックを通し、エンジン側とギヤケース側のバランスをとってください。



3．刈刃が地上から数センチの高さになるように、ハーネスの長さを調整してください。

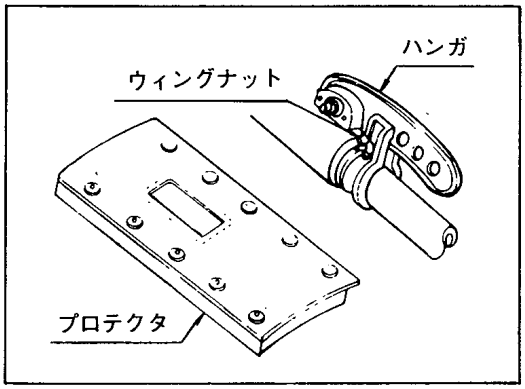


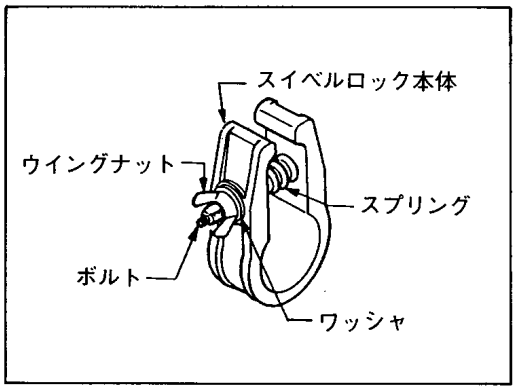
4．緊急の場合、緊急離脱つまみを上方に強く引くと刈払機は身体から離れます。



E－2．スイベルロック（オプション）の取付け使用方法

1．スイベルロック本体からナット、ウィングナット、ボルト、スプリングを外す。
2．スイベルロック本体の両側を手で開き、アウタパイプの下からはめる。
3．スプリングをスイベルロックの間にはめ、ボルト、ウィングナット、ナットを図のように取付ける。
4．スイベルを固定したいときは、ウィングナットを２～３回転締付けてください。
5．ロックを解除するときは、ウィングナットを２～３回転戻します。
6．作業条件により刈払機を左側にして使用する場合は、ボルトを反対側にさしかえてください。



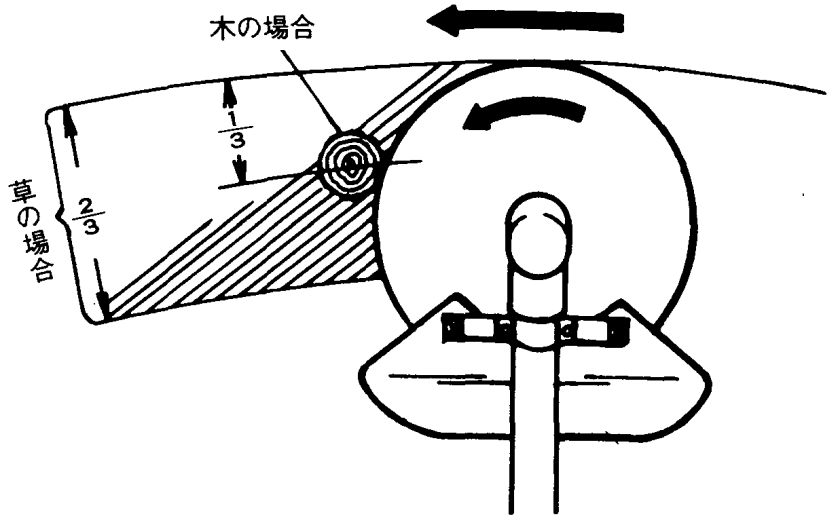


E－3．操作の方法

1．エンジンを始動させ、スロットルレバーを引いてエンジンの回転を上げていくと、自動的に回転刃が回転をはじめます。
2．スロットルレバーをはなせばクラッチが切れ、エンジンはアイドリング（無負荷低速）状態になります。
3．回転刃の回転方向は左廻りですから、右側から左側に寄せるように刈ると能率的です。
(刈取った草は左側に寄せられますので、広い面積を刈るときには、左側から前進すると刈取った草が次の列を刈るときに邪魔にならず、能率的に作業がすすめられます。)



4．回転刃の切れ味は、先端から⅓あたりが最高です。のこ刃で木を切る場合などは⅓の位置を使い、草などを刈る場合は先端から⅔の範囲を使うようにすれば刈り残しがありません。



5．草や木を切らない状態でスロットルレバーをいっぱいに引きますと、エンジンは空ぶかし（無負荷高速）になり、エンジンや刈払機本体のシャフトを破損させる原因となりますので注意してください。

6．クラッチがつながって回転刃が回転していても、低速にしすぎると共振現象による振動を感じることがあります。この状態で作業をしますと、クラッチの摩耗を早めます。又、草なども巻きつきやすいので、もう少し回転を上げて使用してください。

（注）1.木を切るときには、強く当てないで徐々に切込んでください。
2.作業中は半径10m以内に他の人を近づけないよう注意してください。
3.運搬のときは必ず回転刃にカバーをかけてください。

F．手入れと調整

F－1．日常の手入れ

1．刈払機全体の草やほこりを取り除いてください。特に冷却空気の通り路や、エアクリーナ部分の付着物に気をつけましょう。

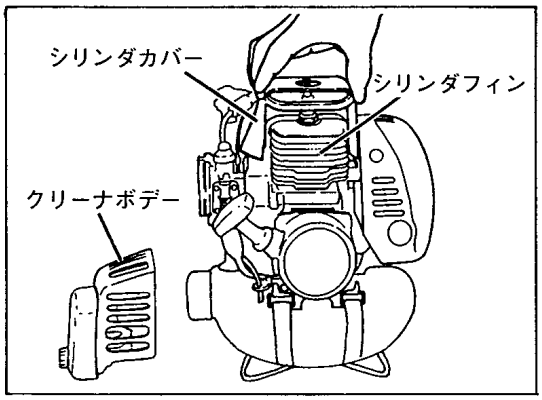
2．燃料タンクまたはマフラを取りはずし空気取入口周辺につまった草やゴミを除去してください。(ゴミが多量につまったままで使用を続けると、エンジン焼付など、トラブルの原因となります。)

3．各締付部のゆるみ、あるいは部品の脱落がないかをよく調べてください。(特に回転刃のボルトは、作業前には必ず締付けて確認してください。)

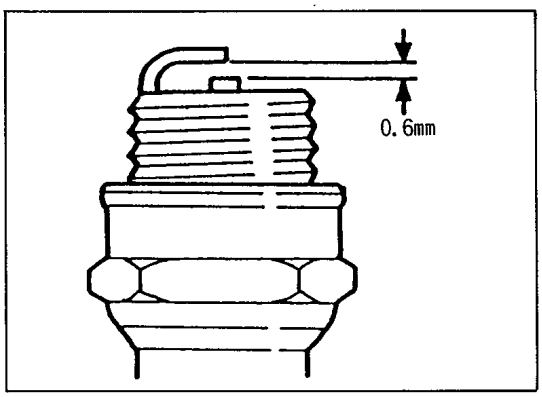
4．燃料やグリースのもれがないか点検してください。

F－2．50時間毎の手入れ

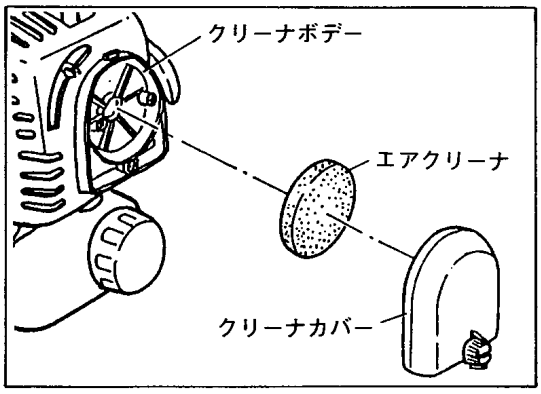
1．クリーナボデー・シリンダカバーを外し、シリンダフィンやシリンダカバーについている草やゴミを取り除いてください。組付けるときは、シリンダカバーをクランクケースにきちんとはめてください。



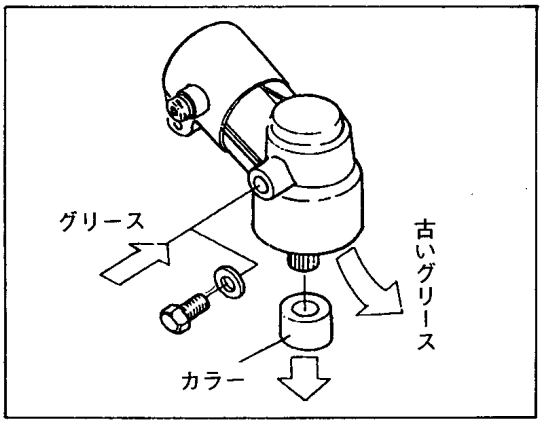
2．スパークプラグを外し、汚れを落として、すきまの調整をしてください。すきまは0.6mm（はがき３枚の厚さ）が適当です。スパークプラグを交換するときは、当社指定の純正品をお使いください。



3．クリーナボデーからエアクリーナエレメントをはずして、混合燃料でよく洗い、絞ってから取付けてください。



4．ギヤケースの中にグリースを補給してください。ギヤシャフトのカラーを抜いてグリースを補給すると古いグリースは押し出されます。(グリースはギヤケース用純正グリースを必ず使用してください。)



F－3．100時間毎の手入れ

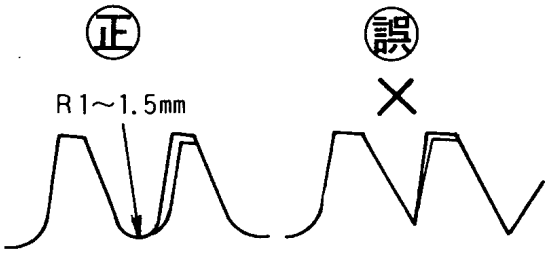
1．各締付部の増締めを行ってください。

2．クラッチシューとドラムの間に油がついていないか点検し、油がついている場合は、布で拭き取ってください。

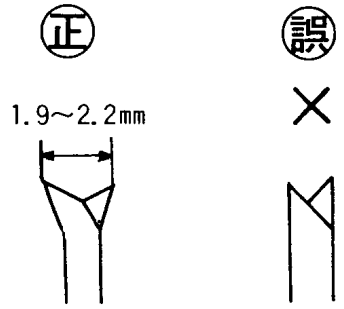
F－4．回転刃の正しい目立て

1．のこ刃の場合

■歯のつけ根は必ず丸やすりで１～1.5㎜のまるみをつけてください。

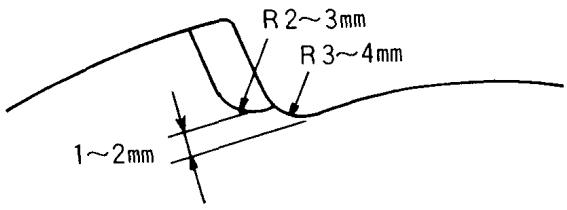


■あさりを表裏均等につけてください。



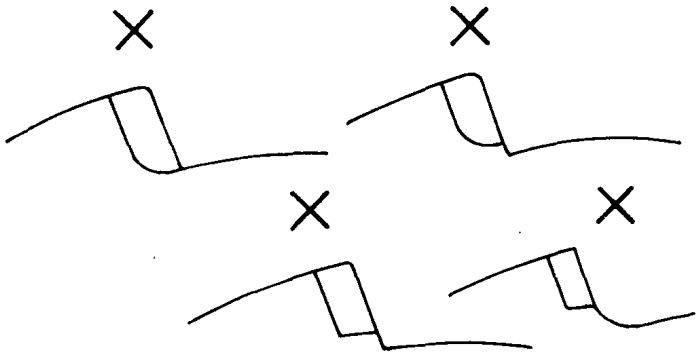
2．ともえ刃の場合

正



■歯のつけ根は必ず丸やすり
でまるみをつけてください。

誤



G．長期保管

長時間使用せずに保管する場合は、次の要領で保管してください。

1．各部は十分に清掃し、金属部分には薄くオイルを塗ってサビを防いでください。

2．燃料タンクとキャブレタの燃料を全部排出してください。

3．スパークプラグの穴から少量のオイルをシリンダ内に流し込みオイルがゆきわたるように2～3回リコイルスタータを引いて圧縮のあるところで止めてロープをもどしてください。

4．損傷箇所がある場合は、修理してから保管しましょう。

5．湿気のないところ、ゴミやほこりの付かない所に格納してください。

H．安全作業のおねがい

安全な作業をしていただくために、必ず次の注意をお守りください。

H-1.服装

1．長そでの上着、長ズボンを着用してください。(すそのヒラヒラした上着は危険です。)

2．ツバのある帽子、または傾斜地ではヘルメットをかぶってください。

3．作業中は防じんめがねをかけてください。

4．すべり止めのついた地下たびか、安全靴をはいてください。

H-2.暑熱、寒冷のときには、長時間の作業は避けてください。また雨の日は、滑りやすいので避けてください。

H-3.火気厳禁

1．ガソリンを使用しますので、刈払機や燃料のそばでたばこやたき火はやめてください。

2．燃料補給時には、必ずエンジンを停止してください。
こぼれた燃料は拭き取ってください。

3．始動は燃料のある場所や、燃料補給の場所から離れて行ってください。

4．燃えやすいものをマフラから出る排気に近づけないでください。

H-4.作業前の点検

1．運転前に回転刃の締付ねじを確実に締めつけてください。

2．運転前に回転刃の「欠け」、「ひび割れ」、「まがり」などの異常がないか点検してください。異常がある場合には絶対に使用しないでください。

3．回転刃を回転させて、異常な振動がないか調べてください。
（異常な振動がある場合は、回転刃がカッタホルダにはまっていないことがあります。）

4．回転刃締付ボルトがすり減ってスパナがかけにくいような場合には、必ず新品と交換してください。

H-5．作業中の注意

1．作業中は10m以内に他の人を近づけないよう注意してください。
数人で作業するときも、作業者間の間隔をとってください。

2．石の多いところ、電線、ばら線などのあるところは、刃先を当てないように注意して作業してください。もし、あやまって石などに刃先が当った場合は、必ずエンジンを停止して、刃先に異常がないかを確認してください。

3．他の場所へ移動するときは必ずエンジンを止めてください。

Ⅰ．故障の診断と処置

区分		原因	処置
①エンジンが始動しない場合	スパークプラグに火が飛ばない	スイッチ	1．スイッチが故障している。	1．良品に交換する。
		スパークプラグ	1．電線がぬれている。	1．乾燥させる。
			2．電極にカーボンがたまっている。	2．掃除する。
			3．碍子のきれつ等による絶縁不良。	3．良品に交換する。
			4．電極間隙の過小または過大。	4．0.6㎜に調整。
			5．電極の焼損。	5．良品に交換する。
		マグネット	1．コイルが断線している。	1．良品に交換する。
			2．コイルの絶縁不良。	2．良品に交換する。
			3．コード被覆の切損。	3．交換または補修。
			4．ユニットが断線している。	4．良品に交換する。
	スパークプラグに火が飛ぶ	圧縮も良好で燃料もくる	1．燃料の吸い過ぎ。	1．リコイルスータにて外部に放出する。
			2．燃料の濃過ぎ。	2．キャブレタを調整する。
			3．不良燃料の使用。	3．良質燃料と交換する。
		燃料はくるが圧縮不良	1．シリンダ・ピストン・ピストンシリンダの摩耗。	1．交換する。
			2．スパークプラグがゆるんでいる。	2．締めつける。
		キャブレタに燃料がこない	1．燃料タンクに燃料がない。	1．補給する。
			2．燃料パイプ・キャブレタの取付がゆるんでいる。	2．締めつける。
			3．フィルタがつまっている。	3．掃除または交換する。
			4．燃料タンクに燃料があるがキャブレタにこない。	4．始動の項参照。
			5．ブリーザ通気孔の閉塞。	5．掃除する。

区分		原因	処置
②力がない場合	圧縮も良く失火もしない	1．エアクリーナ閉塞。	1．掃除する。
		2．マフラのカーボンによる閉塞。	2．掃除する。
		3．燃料パイプの接手等から空気が入る。	3．確実に締めつける。
		4．燃料通路のつまり。	4．掃除する。
		5．ピストンが焼付き気味。	5．強い当たり部分を修正する。
		6．キャブレタのダイヤフラムの作動不良。	6．ダイヤフラムまたはキャブレタ交換。
		7．燃料の中に水が混入している。	7．良質燃料と交換する。
	過熱する	1．燃料が薄い。	1．キャブレタを調整する。
		2．混合油の不良。	2．２サイクル専用オイルに交換。
		3．カーボンの堆積。	3．掃除する。
		4．ファンカバー、シリンダフィンにごみがつまる。	4．掃除する。
		5．無理な運転。	5．正しい使い方をする。
	エンジンの不快音	1．シリンダのオーバーヒート。	1．キャブレタの調整、シリンダフィンのごみ掃除。
		2．使用燃料の不良。	2．良質燃料に交換する。
		3．燃焼室にカーボンがたまっている。	3．掃除する。
③加速が悪い場合	燃料通路閉塞	1．フィルタのつまり。	1．掃除する。
		2．燃料の薄過ぎ。	2．キャブレタ調整する(濃くする)。
		3．エアクリーナのつまり。	3．掃除する。
		4．アイドリングの低過ぎ。	4．回転数を高める。
	空気を吸う	1．キャブレタのゆるみ。	1．締めつける。
		2．燃料パイプのゆるみ。	2．確実にさし込む。
		3．インシュレータのゆるみ。	3．締めつける。
		4．ガスケットの破損。	4．ガスケットを交換する。

区分		原因	処置
④運転中に停止した場合	急に停止した場合	1．プラグキャップの抜け。 2．ピストンの焼付け。 3．スパークプラグ電極のカーボンによる短絡。 4．マグネト内部の故障。	1．確実に取付ける。 2．修正または交換。 3．掃除する。 4．分解点検する。
	徐々に停止した場合	1．燃料の欠乏。 2．キャブレタ内部の塞がり。 3．燃料タンクのブリーザの閉塞。 4．フューエルキャップの通気孔の閉塞。 5．燃料の中に水が混入。	1．補給する。 2．分解掃除する。 3．ブリーザを分解掃除する。 4．掃除する。 5．良質燃料に交換。
⑤停止困難な場合	オーバーヒート系統	1．オーバーヒート、スパークプラグの過熱。	1．掃除し、電極間隙0.6mmに調整。
	電気系統	1．アースの接触不良。	1．点検処理する。
⑥刈払機本体	回転を下げても刃先が止まらない	1．クラッチスプリングの切損。	1．クラッチスプリングを交換する。
	回転を上げても刃先が回らない	1．シャフトの切損。 2．カッタホルダのゆるみ。	1．シャフトを交換する。 2．ボルトを締めつける。
	異常振動	1．刃先の偏心。 2．シャフトの曲がり。 3．ブシュ（アウタパイプの中）の摩耗。 4．ギヤケースのゆるみ。	1．交換または組付けなおし。 2．曲がり修正または交換。 3．ブシュの交換。 4．ボルトの締めつけ。

新ダイワ工業株式会社

本 社	〒731-3167	広島市安佐南区大塚西6丁目2-11	☎ 082-849-2001
札幌営業所	〒065-0033	札幌市東区北三十三条東17丁目4-17	☎ 011-783-7551
仙台営業所	〒984-0042	宮城県仙台市若林区大和町1丁目22-45	☎ 022-239-1688
郡山営業所	〒963-0107	福島県郡山市安積4丁目48-1	☎ 024-945-8678
盛岡営業所	〒020-0122	岩手県盛岡市みたけ4丁目3-5	☎ 019-641-3416
東京営業所	〒134-0083	東京都江戸川区中葛西6丁目17-8	☎ 03-3687-5771
千葉営業所	〒264-0025	千葉市若葉区都賀3丁目19-1	☎ 043-214-0260
多摩営業所	〒192-0043	東京都八王子市暁町2丁目6-3	☎ 0426-20-5590
横浜営業所	〒222-0025	神奈川県横浜市港北区篠原西町34-33	☎ 045-431-7786
静岡営業所	〒422-8046	静岡市駿河区中島2834-1	☎ 054-282-7012
さいたま営業所	〒331-0811	埼玉県さいたま市北区吉野町1丁目19-4	☎ 048-666-2521
宇都宮営業所	〒321-0912	栃木県宇都宮市石井町3149-28	☎ 028-656-8737
土浦営業所	〒315-0052	茨城県かすみがうら市下稲吉1628-4	☎ 0299-59-1005
前橋営業所	〒371-0037	群馬県前橋市上小出町2丁目46-3	☎ 027-234-5956
長野営業所	〒381-0043	長野市吉田5丁目24-16	☎ 026-244-3970
新潟営業所	〒950-0892	新潟市東区寺山3丁目32-12	☎ 025-275-5616
名古屋営業所	〒454-0826	愛知県名古屋市中川区小本本町1-75	☎ 052-362-2281
浜松営業所	〒430-0852	静岡県浜松市中区領家3丁目11-1	☎ 053-465-1140
津営業所	〒514-0823	三重県津市大字半田池町590-5	☎ 059-227-2716
岐阜営業所	〒500-8367	岐阜市宇佐南4丁目2-4	☎ 058-271-4015
金沢営業所	〒920-0016	石川県金沢市諸江町中丁344	☎ 076-237-1230
大阪営業所	〒556-0022	大阪市浪速区桜川4丁目11-20	☎ 06-6561-8484
和歌山営業所	〒640-8482	和歌山市六十谷226-6 黒田コーポ	☎ 073-462-7277
京都営業所	〒601-8304	京都市南区吉祥院前河原町1	☎ 075-321-0141
姫路営業所	〒670-0974	兵庫県姫路市飯田2-88	☎ 0792-33-6838
広島営業所	〒731-3167	広島市安佐南区大塚西6丁目2-11	☎ 082-849-2400
防府営業所	〒747-0031	山口県防府市迫戸町5丁目25	☎ 0835-27-0575
岡山営業所	〒700-0965	岡山市西長瀬261-104	☎ 086-241-3013
高松営業所	〒761-0101	香川県高松市春日町片田1638-7	☎ 087-843-1201
松山営業所	〒790-0064	愛媛県松山市愛光町9-14	☎ 089-922-8886
福岡営業所	〒812-0006	福岡市博多区上牟田3丁目5-22	☎ 092-411-9801
小倉営業所	〒803-0826	福岡県北九州市小倉北区高峰町10-8	☎ 093-561-3422
諫早営業所	〒854-0066	長崎県諫早市久山町1785-5	☎ 0957-49-8857
大分営業所	〒870-0155	大分市高城南町7-13	☎ 097-552-1745
熊本営業所	〒861-8045	熊本市小山3丁目7-26	☎ 096-388-0096
鹿児島営業所	〒890-0073	鹿児島市宇宿2丁目23-18	☎ 099-257-6801
宮崎営業所	〒880-2112	宮崎市小松2399-6	☎ 0985-62-3612

080416

22460-93112 (1-9001) Ⓖ